

学童期病棟での取り組み

地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
 董7病棟 貴志 舞子
令和7年度 小児がん看護研修

学童期の特徴

- ・ 発達段階は自立心、友人関係が重要
家庭から学校へと活動の場が広がり、友達との関わりの中で「勤勉性」が育まれる時期
- ・ 学校生活、学習への継続が課題
- ・ がん治療による入院が「日常生活の中断」となる
- ・ 治療と学業の両立、家族全体を支援する
- ・ 病気や治療への理解が進む時期
子どもの結果だけでなく、努力した「過程」を認め、励ます関わりが必要



学童期後期 男児 ALL

経過

- ・ 同種造血幹細胞移植（BMT）を実施
- ・ 前処置でTBI+大量化学療法
- ・ 移植後1週間後より皮膚紅斑と掻痒感が出現
同時期に口腔内にびらん、口内炎が見られ、食事摂食困難



皮膚障害への対応

- ・ワセリンを1日3回塗布し、Nsと共に一緒に「自分で保湿」を練習
- ・排便の毎にアズノール塗布
- ・日焼け止めを塗布

粘膜障害への対応

- ・キシロカイン、グリセリン入りの含嗽
- ・うがい時は、10秒間口に含んだままでキープした
- ・柔らかい歯ブラシやスポンジブラシで清掃（1日4回毎食後と寝る前に）
- ・クライオセラピー実施時は舌裏も冷やす
- ・食事はプリンやゼリー、ヨーグルト、冷やし麺（病院食）などを推奨
- ・Drや栄養士と相談し、エネルギー不足は経管栄養やTPNを併用

心理的サポート

- ・ 外見の変化（発疹、皮膚の色素沈着など）に配慮
マスク・帽子・ウィッグ・衣服で工夫
他患者との交流を通して、「自分だけではない」と安心できる関わりをする
家族も気にしているためサポートする
- ・ 医療処置への不安軽減
経鼻胃管の説明を行い、患者・家族の納得を得て実施
経鼻胃管を選択することは患者、家族、医療者の不安軽減に繋がる
- ・ 思春期に近い患者への配慮
臀部観察（下痢による悪化など）は羞恥心が強く、難しい場合がある
関係の構築ができている看護師を選んでもらうなど、本人の羞恥心に配慮

その他の日常生活支援

- ・ 入浴、シャワー時の工夫（低刺激性の石鹸使用、ぬるま湯で実施）
- ・ 爪を短く整えて、搔抓を防ぐ
- ・ 衣類は綿素材でゆったりとしたものを選択
- ・ 下着や寝具は刺激の少ないものを用意
- ・ 栄養士と連携し、嗜好を考慮した食事形態を工夫

効果・結果

- ・ 痒みが軽減し、夜間の睡眠が確保できた
- ・ 疼痛コントロールにより、必要な内服が徐々に可能となった
- ・ 内服や食事ができた体験が本人の自信に繋がった
- ・ 家族も安心し、患者への関わりが穏やかになった

セルフケア支援（学童期ならでは）

- ・ 発達段階的に「自分でできること」を伸ばす時期
- ・ 一緒に実践する形でセルフケア教育
 - 保湿剤を自分で塗る
 - 口をゆすぐ回数を自分でカウントする
 - 痛みや痒みを「数字」や顔マークで表現する



今後の課題

○セルフケア支援の継続と発展

- ・保湿や口腔ケアをできないときにどう支援するか

○学習や学校生活の継続

- ・外見変化などが自己意識に影響し、登校や同級生との関わりに不安を持ちやすい

○心理的サポート

- ・痛みがあっても頑張らなければと感じやすく、ストレスや不安が強くなりやすい

○長期的視点でのフォローアップ

- ・長期フォローの中で思春期移行への対応